

令和4年度 天理中学校 学校評価 <教職員用>

令和4年度 天理中学校 学校運営計画			評価 A:きちんと取り組んでいる B:ほぼ取り組んでいる C:あまり取り組めていない D:全く取り組めていない	
重点目標	目標達成の方策		評価	○成果 と △課題
信条教育	「よふぼく」教師であることを常に自覚して、積極的に生徒に働きかける。	1 教師自らが道を求め、折に触れ神様のお話を取り次ぐ。	B	<p>教祖140年祭へと向かう三年千日となり、生徒朝礼や各クラス担任によって諭達第四号が斉読されている様子が見られた。また、担任より諭達を用いた授業も展開され、三年千日における一人ひとりの目標を考えているクラスもあった。</p> <p>朝の参拝は7月より週3回行えるようになり、全校生徒で行った。学校参拝がない日にも朝夕に神殿で参拝を行う教員や生徒の姿も多数見られ、本部月次祭に参拝する姿も多数あった。また、3年ぶりに春季大祭の学校参拝が行われた。</p> <p>おさづけの取次ぎは、神殿や保健室、教室やプールなど場所を問わず、けがや具合の悪くなった生徒にその場で取次ぐなど多くの場面で見られた。1年間に百回以上取次いだ教員もあり、道の教職員として病むものにはおさづけを、という姿が本年度はどんどん体現されていったように思う。次年度はさらに飛躍できるようにしていきたい。</p> <p>本年度は3年ぶりにおよひのきしんが開催された。感染対策を考慮し除草活動とした。秋の街頭ひのきしんと合わせて道の子の修練の場になったと感じる。</p>
		2 朝の学校参拝を、生徒の手本となるようしっかりとめる。	A	
		3 「おさづけ」の取り次ぎと「お願いづとめ」を積極的につとめる。	B	
		4 ひのきしんの活動に生徒とともに積極的に取り組む。	A	
生徒指導	積極的な生徒指導を行う。	5 規律正しい学級づくりのため、授業終始の挨拶指導の徹底を行う。	A	<p>本年度もすべての項目でA評価であった。服装や頭髪指導、遅刻への指導、問題行動に対して組織的対応をそれぞれの教員が心がけた成果であると考えられる。</p> <p>いじめ問題等については、各学期に「いじめ」に係るアンケート調査を実施し、その結果を踏まえ、教育相談と連携し、学年会議を経て、各学年・クラスで問題行動、いじめ、嫌がらせなどの問題に対処するよう努めた。また普段から報告・連絡・相談を密にして、気になる生徒の様子を職員室等で報告し合う場面が見られた。不登校生徒や欠席が続く生徒への対応も、家庭への連絡、家庭訪問をこまめに行い、適切な支援や働きかけに努めた。</p> <p>交通ルールやマナーについては、登下校時、教職員が通学路の安全パトロールに当たってはいるものの、地域の方からご指導をいただくこともあり、登下校時の安全面も含めて、電車内でのマナー、自転車の乗り方、交通ルールについても、定期的に教育していく必要がある。特に、自転車の事故は例年より多く、本校生徒が加害者になる事故も発生した。そのため次年度以降、登下校指導での声かけや指導を徹底していくとともに、全学年に対しての交通安全教室の実施等も検討していきたい。</p> <p>問題行動への対応については、担任一人で抱え込むことなく、報告・連絡・相談を密にして、学年、また学校として組織的に対応していくことをくり返し確認していく必要がある。特に初期対応が大切であるため、ささいな出来事であっても教員間で情報交換するよう心がけたい。また、保護者と協力して対応していくことも重要であるため、保護者との連携もしっかりとっていきたい。</p>
		6 部活動指導における生活指導の徹底を図る。	A	
		7 問題行動において、学級・部・学年から学校全体としての組織的な対応を行うとともに、保護者との連携を密にしてすすめる。	A	
	規律ある生活習慣の確立をめざす。	8 服装や頭髪、時間、交通ルールなどのきまりを守らせ、規範意識の向上をめざして日常的に指導を行う。	A	
		9 挨拶・返事・言葉遣い・無言昇殿など、全教員が意識を統一して指導を行う。	A	
		10 遅刻指導などを通して、個々の生徒の心の動きに気づき、家庭訪問を行うなどきめ細やかな指導を図る。	A	
		11 いじめ問題の重大性を全ての教職員が認識し、学校長を中心に未然防止「いじめを生まない土壌づくり」を組織的に取り組む。	A	
いじめのない学校生活をめざす。	12 いじめの態様や特質、原因、背景、具体的な指導上の留意点などについて、職員会議や校内研修などの場で取り上げ、教職員間の共通理解を図る。	A		
	13 いじめ問題を、特定の教職員が抱え込んだり事実を隠したりすることなく、報告、連絡、相談を確実にし、学校全体で組織的に対応する。	A		
学習進路	基礎学力の充実と学習習慣の確立。	14 基礎基本に重点をおき、くりかえし取り組むことの大切さを教える。	B	<p>本年度も基礎基本を徹底し、追試や補習を行いながら、基礎学力を高める努力を行った。宿題の提出については、量や期限について、適宜検討が必要だが、粘り強く指導し、徹底させることで、宿題の提出が習慣化してきている。また、ICT機器を活用した授業を積極的にし、自宅待機となった生徒に対してはオンライン授業を実施した。</p> <p>進路については、1、2年生に天理高校の説明を担任が行い、本校の進路原則を促した。また3年生には天理高校訪問や天理高校の情報をポスターで貼るなどし、生徒への意識づけを行った。学習面の充実とともに、生徒が個々の徳分をいかす進路を考えられるように、2年生にライフプランニング授業を実施した。また、人権教育部と連携し、3年生のいじめつきょうだい学習では外部講師を招いて、「夢を語ろう～進路を見すえて～」をテーマに講演をいただいた。今後も学校教育全体を通じた進路学習の構築を図っていくことが必要である。粘り強く、関わっている教員すべてが情報交換しながら、生徒一人ひとりに合った進路開拓ができるよう取り組んでいきたい。</p>
		15 適切な内容の課題を与え、やりとげさせる指導を行う。	A	
	進路についての丁寧な指導をめざす。	16 管内学校などの進路情報を提供し、生徒の意識づけを図る。	A	
		17 個々の徳分に気づかせ、それをいかす方向で進路を考えさせる。	B	
研修	教員の授業力の向上をめざす。	18 研究授業を実施し、教員の授業技術を向上させる。	A	<p>本年度は各教員が公開授業等を行う中で、意見や情報を交換したり、新たな方法を学ぶ機会を持つことができ、授業力の向上につながっていると感じる。タブレットを使用したアクティブラーニングを実践した公開授業もあり、新たな可能性が広がった。研修に関しては、「アレルギー」や「熱中症」の他にも、外部講師を招き、「情報モラル教育」や「不登校生徒との関わり」、また「LGBTQ」に関する研修を行った。次年度も研究授業の実施に努めるとともに、各部会や学年とも連携しながら、研修にも一層力を入れていきたい。</p>
		19 計画的な研修を行い、教員の継続的な資質向上を図る。	B	
人権教育	陽気ぐらし世界の実現達成に貢献しうる実践力をもった人間育成をめざす。	20 いじめなど、不合理・矛盾に気づき、正しいことが主張できる態度を育てる。	A	<p>人権教育指導計画に基づいて、人権作文、各学期のいじめつきょうだい学習に取り組んだ。本年度は3年ぶりに7月の人権教育講演会を実施することができた。人権作文の内容の中には、昨年に引き続き新型コロナウイルスに関する差別や偏見などの作品が多く、それに加えロシアとウクライナの戦争についての内容も見られた。今後も学校生活において言葉づかいや時代にそぐわない偏見などに注視していきたい。いじめ対策については、毎学期、県教育委員会のアンケートや校内アンケートを通して、早期発見、対策に努めた。3年生は、「進路を見据えて」と題して、外部講師と対面での講演を実施し、目標や夢に向けて自ら考え実行できる心を養い育てていくための良い意識づけとなった。今後もいじめつきょうだい学習を充実させ、様々な視点から人権を学び、神様の教えに通ずる心を養い育てていきたい。</p>
		21 差別やいじめなどを排除し、人の立場に立って考え、行動できる力を身につけさせる。	A	
		22 自分の進路を開拓し、社会の発展に努める力量を育てる。	A	
教育相談	支援を必要とする生徒に対して、教師、保護者、カウンセラーおよびオアシスフレンドが連携を密にしながらサポートを行い、生徒個々の能力を伸ばしていく。	23 支援を必要とする生徒の把握につとめる。	A	<p>本年度も、学級担任、養護教諭と連携をとり、不登校生徒や支援を必要とする生徒の把握に努め、支援を行った。支援を必要とする生徒本人や保護者に対してカウンセリングや別室の利用を促し、スクールカウンセラーやオアシスフレンドとも連携し、個別の支援を検討し対応することができた。近年、不登校傾向の生徒が増加しており、また抱える問題も多様化、複雑化している。教員や養護教諭の対応が増大し、個別対応ができる場所の確保も難しい現状である。今後も生徒の状況把握に努め、適宜、合同カンファレンスで情報共有し、組織的な支援を行って、授業復帰や社会的自立に向けた支援体制を継続したい。また、多様な教育機会を確保するため、教室で授業を受けることのできない生徒に対するICTを活用した学習支援等についても検討し、取り組んでいくことが課題である。</p>
		24 支援を必要とする生徒へ、迅速かつ適切に対応し、必要に応じてカウンセリングにつなげる。	A	
		25 適切な支援を行うため、合同カンファレンスを行う。	B	
		26 支援を必要とする生徒への、有効な別室の活用を進める。	A	
美化	「天中は美しい学校です」と言える学校をめざす。	27 感謝の心で活動を実践するよう指導する。	A	<p>日々の清掃を、教職員・生徒たちは一生懸命に取り組み、それぞれに与えられた役割に責任を持って行い、美しい学校を維持することの大切さを学んでいる。また、街頭ひのきしんや大掃除を通して環境を整える大切さ、そして天中生としての自覚が芽生えていると感じる。教職員は、生徒の手本となるようしっかりとめ、様々な清掃・美化活動を通して生徒に感謝の心が育つように今後も努めていきたい。音楽室床絨毯張替えなど教育環境の整備も実施している。校舎の築年数も約50年となるので、校舎等を丁寧に扱うことの重要性もしっかりと指導していきたい。</p>
		28 一生懸命行う素直な心と、自分で仕事を見つけ進んで努力できるように指導する。	A	
		29 美しい学校だと感じることができ環境をみんなで創る。	A	